

質問票とアンケート

■BDHQ を「アンケート」と呼ばないで！

BDHQ を「アンケート」と呼ぶのは正しくありません。食習慣を調べる（検査をする）ための「質問票」です。つまり、「食習慣検査のための質問票」です。「アンケート」とは呼ばないように厳重にご注意ください。

■アンケートとは？（開発者の解釈）

「アンケート」とは「調べる側が知りたいことを知ることが目的として、対象者に答えてもらうために使う質問票」を意味する用語として広く用いられています。ポイントは、アンケートに答える対象者本人はそれに答えたことによって何も新たな情報を得ることはない、という点です（お礼に鉛筆をもらえるなどの利益はありえますが、回答内容との関連はありません）。アンケートの特徴は、得られる情報はもっぱら調べる側が興味をもっていて、調べられる側は興味をもっていないという点です。また、たとえ、興味をもったとしても、対象者に直接役立つものではありません。「あなたは何党を支持しますか？」という支持政党を尋ねるアンケートを考えれば、アンケートの特徴が容易に理解できるでしょう。

■アンケートということばの語源と使い方

アンケートということばはフランス語の *enquête* に起源があるそうです。ところが、英語では（フランス語でも）質問票は *questionnaire* だそうです。質問票をよく用いる社会調査の分野でもアンケートということばは用いられておらず、調査票と呼んでいるようです¹⁾。しかしながら日本では、アンケートは一般に、質問票調査を指す言葉として使われています。時には社会調査の代名詞として扱われることすらあります。一方で、アンケートと呼ばれる調査やその結果は、娯楽番組や新聞や雑誌へ話題を提供するためにも広く使われています。「アンケート」に関して厄介なのは、この言葉が学術文献の中ですら無造作に扱われている例が多く、専門的な用語法との線引きが必ずしも明快ではない、という点です。ある社会学者は、アンケートは確かにフランス語を起源にしてはいるものの、日本においてきわめて特殊な意味を持つようになってしまった一種の和製仏語であること、そしてこの言葉が持っている外国語風の響きが、安直な質問票調査で得られた数値情報を科学的で客観的なデータであるかのように見せかける上で効果的だったと主張しています²⁾。このような背景からも、BDHQ をアンケートとは呼ばないほうがよいことがわかります。

つまり、BDHQ を使って食習慣に関する調査をしたいと考えた場合には（支持政党について調べたいと考えた場合と同様に）、その目的から考えて、BDHQ を「調査票」と呼ぶことになります。そして、目的ではなく質問が並んでいるという構造からは、「質問票」と呼ぶのが適切でしょう。

■検査とは？（開発者の解釈）

検査、特に、医学検査とは、対象者のからだの特徴を調べ、本人（対象者）の病気の予防や治療に活かすために必要な情報を得ることです。ポイントは、①調べられる側の役に立ち、そのために、調べる側と調べられる側の両方が興味をもっているという点と、②自分のことなのに自分ではわからないから調べる、という2点です。胸のレントゲンを考えるとわかりやすいでしょう。肺に影があるかどうかは外からは見えません。影を見つけてそれが悪性のものであれば、早く治療しなければなりません。ですから、胸のレントゲンは医療者のための情報ですが、その目的は患者さんの病気の治療や予防のためであり、患者さんの興味であり、知りたいものです。

この考え方に従えば、検査にレントゲン線（X線）を使えばX線検査、質問票を使えば質問票検査となるでしょう。そして、検査のための質問票を短く呼べば（このようにはあまり呼ばれてきませんが）、「検査票」となるでしょう。

■BDHQは調査票か検査票か？

BDHQでは、対象者の食習慣、つまり、習慣的な栄養素の摂取量がわかります。その情報を日本人の食事摂取基準という栄養素摂取量の基準と比較して、食べ方の良否を調べ、個人結果帳票として、その結果を対象者が見られるようになっていきます。この結果によって、どの栄養素をどのように食べるのがこの人の健康を保つうえで良いのかがわかります。そのためにはどの食品をどのくらい食べればよいのかもわかります。

つまり、対象者がBDHQの個人結果帳票に興味をもち、その結果を健康管理に活かせば「検査」、個人結果帳票を使わなければ「調査」ということになります。

ところが、胸のレントゲンとちがって、食べ物についてのたくさんの質問に答えて、自分の食べ方のどこにどんな問題があって、どのように改善すればよいかを数値を使って、ていねいに教えてくれる検査法がいままでほとんどありませんでした。そのために、BDHQを渡されても、それが「検査」だということを対象者は想像できません。そのために、医療者側が「これは検査です」と教えてあげなくてはならないのが実情です。生活習慣病の予防の重要性が強調される世の中になって、病気の治療ではなく、予防を目的とした検査の重要性がずいぶん強調されるようになってきました。BDHQはそのうちのひとつだと考えると考えやすいでしょう。

BDHQはその構造からは「質問票」、目的からは「調査票」または「検査票」と呼びましょう

■【付録1】質問票か質問表か？

「表」には「②こみいった事柄を、見やすいように配列して書きあらわしたもの」、「票」には「①ふだ、紙片、書付け、②選挙・採決などで意思を表示したふだ」という意味があります²⁾。BDHQを「こみいった構造の質問や選択肢が見やすいよう・答えやすいに配列して書きあらわしてあるもの」と理解すると「質問表」となり、「質問や選択肢が書いてある紙片」と理解すると「質問票」となるでしょう。このような理由で、どちらを使っても誤りではないようです。ただ、「表」は「もっときれいに縦横に情報が整理され、記載されているもの」と開発者が理解していたために、BDHQではいままで、「質問票」

のほうを使ってきました。そのため、現在も、習慣的に「質問票」のほうを用いています。

■【付録2】検診か健診か？（開発者の解釈と希望）

検診は「検査・診断」の略です。目的は「病気を早く見つけ、早く治すこと」です。代表例はがん検診です。がん検診を受けてもがんの予防はできません。がんかがんでないかだけがわかります。しかし、症状のない小さな早期のがんが発見でき、早く治療できるので大事に至ることなく、健康を保つことができます。病気は減りませんが、命を落とすという一大事を予防できますから、これもある意味で予防です。このタイプの予防を厳密には二次予防と呼びます。

健診は「健康診査」の略です。目的は「健康状態の程度を調べ、健康を保つうえで必要な情報を得ること」です。病気を早期に発見することも含まれますが、第一の目的は健康状態のチェックであり、病気を未然に防ぐ、つまり、予防することです。このタイプの予防を厳密には一次予防と呼びます。日本では、成人は全員年に一度、健診を受けることができます。検診ではありません。この前、あなたが受けた「けんしん」を思い出してください。「いまのところ血圧はだいじょうぶですよ」で終わっていたら、これは検診です。健診なら、「いまのところ血圧はだいじょうぶですが、お父様が脳卒中で亡くなられていますし、食塩摂取量がやや多め、カリウムがかなり少なめで、お酒の量もかなり多いので、近い将来血圧が上がってくる危険があります。ここに示したような食べ方をお勧めします。できる範囲でやってみませんか」となるはずです。

【参考文献】

- 1) 大谷信介 他編「社会調査へのアプローチ[第2版]--論理と方法--」ミネルヴァ書房, 2008. p.3
- 2) 佐藤郁哉. 不思議の国を社会調査--用語モドキたちとの訣別をめざして-- . UP 2015; 44: 10-7.
- 3) 新村出 編「広辞苑 第六判」岩波書店, 2008.